

『東アジア近代史』第28号(2024年6月)

《特集》東アジア近代史における「ロシア」という存在

趣旨説明 櫻井 良樹・醍醐 龍馬

中国国民政府の対ソ認識およびその政策決定におけるソ連要因—1931～37年の変遷を中心に— 鹿 錫俊

19世紀中葉露清交渉における宣教師の役割 畔柳 千明

中東鉄道売却と1930年代前半におけるソ連の対日外交 藤本健太郎

日中戦争以後の日本外交におけるソ連要因—戦後初期までを視野に— 武田知己

コメント 佐々木雄一

コメント 左近幸村

《歴史資料セッション》戦争関連資料の収集・保存・公開—国民の共有すべき歴史的文化遺産をどう残すのか

趣旨説明 東山京子

展示品の向こう側にあるもの—資料を未来につなぐために— 加藤和俊

「銃後」の記憶と「もの資料」—民衆と地域を伝える試み— 本康宏史

前橋空襲・復興資料館—戦争の記憶を風化させないために— 手島仁

《独立論文》

「対支文化事業」をめぐる日中関係—「日中文化協定」改廃交渉(1929-1931年)を事例に— 金子聖仁

中華民国北京政府による海洋領有の政策過程—漁業問題への対処を観点として— 佐藤良聖

《書評》

松田ヒロ子著『沖縄の植民地的近代—台湾へ渡った人びとの帝国主義的キャリア』 高江洲昌哉

《その他》

中塚明先生追悼記事 井口 和起・大谷 正・檜山 幸夫

《活動報告》